水滸傳

詞縱縛

七

ホ 2
4565
7上

門 ホ 2
4565
巻 7

門 ハ利 9
巻 ノ

水穂傳詞縦緯七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寄[illegible]先寄讀[illegible]詞の本[illegible]知[illegible]ウタ[illegible]ウタの反アリ[illegible]

アリ五十連の總名[illegible]ヨム[illegible]ヨミ[illegible]用[illegible]ヨミ[illegible]與[illegible]五十連の音(コエ)心の

[illegible]與(クム)[illegible]寄讀[illegible]故[illegible]古今の序[illegible]花鳥[illegible]水[illegible]蛙の音を

[illegible]何(イヒ)[illegible]寄[illegible]當(ホヒ)ホケキヤウ[illegible]

音(コエ)を與(クミ)蛙[illegible]クワクワと音を與(クミ)鳴[illegible]蛙も三十一文字の寄を讀[illegible]

[illegible]人[illegible]見[illegible]聞[illegible]音(コエ)を與(クミ)言(モイハ)[illegible]世與(クミ)[illegible]詞

と其詞と再興と思と伸と奇と詞と敬萬葉集と日本
萬と言と集のまちう
辞と語の本と始の約㊀と又キの反㊁と八と姓と㊂と終のこと
詞の縦緯始終と心ちう辟言と三十と言と系と連と詞の節と絡
と始終と結と一二ヨハと言と奇と限と法用と水家國と治身と
脩と本と辞と聊と此法則と違時と事始終正と天地自然の道と
古今の序と宇治山の僧喜撰と言葉
と始終と結と辞と
天地の陰陽と四時の活則と変と鷹と寒暖同と人の水と赤
と故と辞と其言と法則と事と臨変と鷹と上の詞と従と下の
詞と發と自在の活用と下と代と其活用と知と言語辞
と無差別と博と數百の古奇と見合と或と能の何言と奇惑毛の

幾言と奇と押足踏と辞と是本と造分と
と死物の扱と活物の扱と琢書と書と
古昔の人と言と活用と著明後世の扱と辟と謂他の織と
錦の紋柄と咲と花と見と其咲と故瀆の砂の數
と思惑と是と作学と花と天地の陰陽と開奇と人の軒と讀
錦と五の色と出と其五の水火の性と知と己紋柄の工と辞と
水火の性と知と奇と自在と讀出と總法則と數箇条と
と五連の音と天地の理と知と況只辞と吾と法則と
上と代の学と十と百と知と五の色と錦と織の糸與と先
此法則と古昔の奇の節と解見給へ解ぬと辞と得と知
へ人の人と他の奇と解と後と己が奇と讀出と先と吾と他の奇

を解するを先とし色々讀出すを後とす故に此一巻を他の哥を解の法にて
五々哥を解するを得るを讀んで能く得た
古昔の人の哥を本として今人の哥を讀人今の人の哥を詠ずる哥
をも故古昔の哥をも緑春の林をも人今時の哥を梯
を造るを花を分るを皆學ぶ踈の故なり

二丁

○辞之法則

一此言八上ノ詞ヲ受テ下ニ挿ム發也
一問言ニ云時八不ノ字ナス也　清問共
一下ノ句ノ留ニ云時八上ノ詞ニ反也
一下ノ句ノ留ニ在テモ言約コトアリ讀方ニ從也

不ノ心ノ格

新古

古

二

上ニ反格

古

上

ミシレノ雨ヲメテスキニシテ竜田川ニ錦オリカケト反也

上

天津ノラヲル人ヲコフトテユフクレハ雲ノタテニモノ思フト反也

上

憂キ事度コトニモノ忘セデイニシヘニ猶タヲカヘルト反也

言約格

言約

此哥八留ノテニ言約テ市上ニ反ノ字ヨヲナス不ハ哥ヨトリ処ニ云

言約

一清音ニ唱テ不ノ字ヨナスコトアル也

上ニ反格

新勅

一此言八上ノ詞ヲ受テ下ノ詞ヲ發也
一下ノ句ノ留ニ云時八上ニアル詞ニ反也
一下ノ句ノ留ニ在テモ反ラズシテ言約コトアリ讀カタニ從フ也

言約格

不ノ格

萬葉長寿

立良久乃田付毛不知　居良久乃旅久鴨不知

上ニ反格

ヲ

一此言ハ上ノ詞ヲ強押テ下ノ詞ヲ發也

一下ノ句ノ留アルトキハ上ノ詞ニ反也

一下ノ句ノ留ニ在テモヨミカタニヨリテハ言約也

一竟ニトハ心ヲナスコトアリ是ヲ訓ヨミ辞ヨミニハアラズ

言約格

竟ヨミヲ格

竟

竟

竟

言約

竟

竟

竟

言約

言約格

ハ

一此言ハ上ノ詞ヲ受テ下ノ詞ヲ發也

一下ノ句留ニトキハ上ノ詞ニカヘル也　清潟共ニ

竟ヨミヲ格

竟

竟

竟

古

日

日

下

上

上

上

日

上

日

上

セ

一此言ハ勝ヲトヲ字故上下心ヲ勝也

一赤トヲ心也

一下ノ句ノ留ニ居ル時ハ上ノ詞ヲ折累ヲ字意思毋ナレバ意思意思ナリ

不知毋トイヘバ不知不知ナル格也

智是此テニヲハ四言下ノ句ノ留ニアルトキハ皆詞ヲ上ニ反則縦縛始終ヲ結ナリ

故ニ辞ノ多此四言ニアリ

上下心勝格

後拾

日

都ノ空ト四石ノ月ト勝ノモナリ

思ヒヤラルル今日ト去年別シキ日ト解モ

赤心ノ格

六帖

萬

後

後拾

古

万

詞ヲ折累格

其外諸ノ詞ヲ折累ノ扱ナリ

ノ

一此言ハ上ノ詞ト下ノ詞ヲ軽後テ隔ヲナス也水ノ字ナレハ何言ツヽキテモ耳ニ立コトナキ也

一如トヲ心ヲナス也尤ニ言ツヽキタル時ニ三ツ目ノ乃ニ如ヲ心ヲナス也然トモ讀ハカニヨリテハ

畧シテ一言ニテモ如ノ字ヲナス何レ語ノ下ニツカサレバナスコトナレ是ヲ乃如トモ

軽隔ノ格

古 [illegible]

日 [illegible]

日 [illegible]

此外春乃日乃。鶯乃笠ニふる。春乃夜乃暗ニあやなう。[illegible]須[illegible]

賀是何言ツヲキテモ耳ニコトナシ然トモ地名ナトニハ猥ニ乃ヲ加テ云レズ壁ニテ云ハバ

小倉山ヲ小倉乃山ト只ニハ云レズ上ニ序ヲ置テ夕月夜小倉乃山ト暗ニ設テ云

地名ハ總テ賀是須磨乃浦ヲ須磨浦ト云ハズ千歳山ヲ千歳乃山ト呂ニイハズ

乃如ノ格

古 [illegible]

新古 [illegible]

古 [illegible]

日 [illegible]

如是スベテ語ヨリツヅク乃ハ如ノ字ヲナスモノ山乃ト云バ山ノ如ク川乃ト云バ川ノ如ク云ヲ花乃ト云バ

花ノ如ト云ル格也山の井乃清水ト思ふらんと云ハ山ノ井ノ如ク清ク氷乃ト云ル氷ノ如

ト云ル。ちくさとハ蛙のちくさなへ鳴くらんと云バ蛙ノ如ク多ク行の田の稲の穂ノ如ク思ふ稲妻乃

ト云ハ稲妻ノ如ト云コト也

ソ

一此言ハ詞ノ切辭ニ強切ナル結ノ言ナレ弱ト云。クスツヌフムユルシキ。此十言ノ結

アリ

十言結格

古 [illegible]

日 [illegible]

又 [illegible]

万 [illegible]

古 [illegible]

日 [illegible]

日 [illegible]

日 [illegible]

古 人こそしらぬ世の中の恋ゆへ思ひそめしはいつ
日 ふせとうたへとそしらぬ人の恋ゆへ思ひそめしはいつ
日 ひとりねの恋ゆへ思ひそめしはいつ
日 ひとりねの恋ゆへ思ひそめしはいつ
日 ひとりねの恋ゆへ思ひそめしはいつ

前後ニ結格

日 秋ちかき月ちかふかすみもしたる
日 ふるさとの月ちかふかすみもしたる
日 ふるさとの月ちかふかすみもしたる

強切格（一一一一テニヲハ四言ヲ結ベシ）

拾 うらみてもうらみてもうらみてもう

新古 語 語 語 語 語 語 語 語

新後拾

續古

玉

右等ハ語ト語ヲ文ニシテ間ニ置クル格也後世上五文字ノ下ニ置ヲ呼出ノヤトモテ

根ニ云コトハナリ又古昔ハ語ト語ノ間ニ非レハスズ因テ古奇ノ格ニナシ。地名ナトニモ用ル

云時ハ必アルヘキノ格ナリ其例ナ多シ。地名ナトニモ用ル

里。樂浪や志賀の都。かつらぎや間の山。あすかのや間野の浦トモ云也近ク其所

ニ居テ見ノ格ナリ毋遠ヨリ見望テ云時ニハ。駿河ニ在富士ノ高根。信濃ニ在浅間ノ

岳。東ニ在野島カ崎ナトニテヤ。ハヌズ在トハ云ルノ約リ詞ニテ駿河ニ在富士 信濃

ニ在ル浅間カ岳トモ云ヘキナリ此ニモノ格ヲ以テ遠近ノ向ヲ別ル

否ノ格

古

春タテハ花トヤ否見ルラン雪ノウモレル枝ニ鶯カナクトシ

否

否 否 否 否 否 否 否 否

此外ニモ。夕月夜。こゝやの国部。こゝやの相夜。ほゝゑみやまこゝやまこゝやまこゝ

行ノ花ナキ里ニ修ナラヒハセヤヒトヒヨリ及テ修ナカニミサリ及花カアルニヤトヒヨリ含ノ格

消ズアリトモ花ト見ベシヤ花トハイハレヒトヒ九格

稲妻ノ光ノ間モ吾ヤ忘ル〻ヒモハセヌト友格

力

一此言ハ詞ノ別ヨリ字也
一朝在ト云心ヨリナス也
一疑ノ心ヨリナス也
一猶ノ心ヨリナス也

朝在ノ格

古

カルニ

カルニシ

カルニシ

カルニシ

疑ノ格

古

疑

疑

此外まもるのてにをはかもちくもちくもちくもあるかもあるかもちくもちくもちくもあるかもあるかもちくもちくもちくもあるかもある

古 あきみたんぐふるこをみ山しも 日 カモ

日 くるがくれみちくるこんらつ花川ちるのうへカモ

モガ

一此言ハガモト同意ニテ頭ノ心也 ガモヲ文ニ云シ

一モハ上ノ詞ヲ受テカハ必ノ心ヲナシテ 赤必トスヲナスコトアリ

頭ノ格

万 八隅知之和期大王（ヤスミシシワガ） 中畧

赤必格

天地與日月共萬代爾母栽（モガ）

日 いのつるんがくあぐるちとこるもガとのわくとぐとつてふぐかむ

カハ

一カハ影ノコトトリハ日向ニシテ則表裏也 故ニ反辞（カハ）トモ云有トモ云無心ニ反無トステ有心ニ反也

古 りふのくちちかくあつけるくやまとこのこたちカハ

立コトヤスキ花ノカゲカハヤスハナイトナル格シ

日 ふくくちちるもるくやくくく

古

焼塩ノ如ニカラクモ吾ハ老ケルト感スル心

待人モコヌ故ニ鶯ノ鳴ク枝ヲ折テ捨タナセニ君ハ来マサスト感ズル心

歎ニモ空ノ雲ニ成ニケリ

感ズルの事歌

願ノ格

詞言

古

[illegible]

ガナ

願ノ格

ガナ

願ノ格

ガナ

願ノ格

己定ノ格 ラン反ハニシテ定ノ詞疑ニ非也

古 日

コソ

一此語ハ強押心也亦乞心也 ケセテアヘメエレシキ此十言ノ結アリ
二下句ノ留ニ云時ハ皆乞心ニテ十言ノ結ニ不及亦有テモ不苦

詞ノ押格

古 日 日 日 日 日 日

拾 千 古 万 古 日 日

結無格

古 日

ケリ

過去也

花ハ咲ニケトヲコトニテ過去咲テルノ心ナリ

古

花ノウラヒタルヲ見ルコトニテ過去也

紫雪ふりてけり。秋こそ来てけり。ふるまちてけり。

賀是雪ふりてけりふる雪の降てきたりてけり過去也

ケル

古

ツル

現在也　クスツヌフムユル　此八言ニ留ルモノ皆現在ナリ

ユメノウチニモ花ハナルトミルコトニテ現在し

人ヲ待ハツルトキモノニテアルト云コトニテ現在し

紫ニモムラサキノ色ニ人ヲ染ケル。咲ケル人ヲ染ケル。ケル現在也

只今テ鳴ケルコトニテ現在し

日クラシノ鳴音ニ人テ日クラルルコトニテ現在し

ケレ

是ハケリケル　ケレトラ行ノ活用ニテコソニ結辞也

古

カナシカリケルトミヲ二上ニヨリノ辞アルヲ終テケレトミし

ワビヒトケルトミヘキヲ上ニコソト在ヲ以テケレトミし

ケン

過去

古

ユメニ見エシニテ過ぎし

モミチヲ見ルコトニテ過ぎし

センン

現在

古

駆セ

駆し

駆し

駆し

テン 未来

古 まちかねてくるあさのはつかぜ
今ノ幾日ホトニタチナラ若菓ガツマレマシキウト云コトニテ ままし
はるかすみたちくるあさのはつかぜ
明日サヘフラハツマレマシヤウト云コトニテ ままし

ヌ

此言ハ。不奴。畢奴。二奴ト云三ノ扱アリ。○カサタナハマラ此七言ノ下ニ續奴ハ不ノ心也是ヲ不奴ト云 ○キシチニヒミリ此七言ノ下ニ續奴ハ叉定ニシテヌルノ心也是ヲ畢奴ト云 ○ケセテネヘメエレエ此九言ノ下ニ續奴ハヌルサルトノ兩系ヲチス是ヲ二奴ト云也

不奴

サカヌ 咲サルコトシ
キカヌ キカサルコトシ
ナサヌ
ササヌ
タタヌ
マタヌ
イナヌ
シナヌ

畢奴

サキヌ 咲ヌルコトシ
ユキヌ ユキヌルコトシ
ナシヌ
サシヌ
タチヌ
ツチヌ
イニヌ
シニヌ

兩奴

トケヌ トケヌルトモトケサルトモ聞エ
アケヌ アケヌルトモアケサルトモ聞エ
ミセヌ
アセヌ
ハテヌ
ステヌ
カヱヌ
イヱヌ

イハヌ
トハヌ
ヤマヌ
ツマヌ
アラヌ
シラヌ

イヒヌ
トヒヌ
ヤミヌ
ツミヌ
アリヌ
シリヌ

アヘヌ
ソヘヌ
ヤメヌ
トメヌ
ミエヌ
キエヌ
シレヌ
カレヌ
スエヌ
ウエヌ

右ノ兩奴ノ奴留不ノ兩系ヲ分カルコトハ奇ノ瀆方ノ自他ニ從フ他ニヨムトキハ奴留ノ
ヨリ自ニヨムトキハ不ノ心ト云也右ノ法則ヨリテ差別ナストイヘトモ多ハ不ノ時ニハ
兩ノ結ヲナス其扱ハ次ニ委シ

奴留格

古 人ぬれぬ。ヌ わすれぬ。ヌ ちとせぬ。ヌ
知ヌルコトシ故ニヨヒヽコトニ出モナスト云コトシ レヨリ受ルヌナレトモ二ノ結ナケレバ知ヌルコトシ
やすらへぬ。ヌ ほのぼのとあけぬ。ヌ ちぬ。ヌ
ヤトリシヌル橋モ拍モヌ二ナセニホトヽキスキアタエヌルヽトシ是モ二ノ結ナケレバ絶ヌルコトシ

右ノ二首ハ他ニヨミタレバ奴留コトモ兩結ナシ

兩ノ結在格

古

くさまくらゆふきまでにとつむとくとみ隠

ふくさ結ニかくしぬ沖のるみ人をとらふかくさ結ニくエぬ

ハ

右ノ二首自讀タレハ皆不ノ心ナリ則兩ノ結アリ

ナン

本語ハナウムナリ約テナントスル故ニナウムノ反ヌニシテ不奴畢奴兩奴ト同格ヲナスモ。カサタナハマラ此七言ノ下ニ續ナレハ不ノ心也右ノ結アルトキハニアラントスル心ヨナレテ未来ヲ押度ノ心也。キシチニヒミリ此七言ノ下ニハクチンハヌルノ心也右ヤ言ノ結アルトキハニアランノ心ニシテ未来ヲ押度ナリ。ケセテヘメエレエノ下ニツクナンハ奴留ズノ兩ヲニワタルモノハ詞ノ自他ニ從テ扱別ナリ自ニスル時奴留ノ心也他ニ言トキハ不ノ心也右ヤ言ヲ結トキハ本ニアラントノ心ニシテ未来ヲ押度ノ心也

二ハ知ヲナスノナンノ格アリ其時ハ言ノ續ニヨラズ何ノ言ヨリモツキテスル詞ツキニヨルト可知

不南（サルナン）　里南（ヨハンヌナン）　兩南（フタナン）

サカナン 咲ザルコトシ
キカナン キカザルコトシ
ナササナン
ササナン
タタナン
マタナン
イナナン
シナナン
イハナン
トハナン
ヤマナン
ツマナン
アラナン
シラナン

サキナン 咲ヌルコトシ
ユキナン ユキヌルコトシ
ナシナン
サシナン
タチナン
クチナン
イニナン
シニナン
イヒナン
トヒナン
ヤミナン
ツミナン
アリナン
シリナン

トケナン トケヌルトケボルノ兩ツキ
アケナン アケヌルト アケザルノ兩ツキ
ミセナン
アセナン
ハテナン
ステナン
カヘナン
イヘナン
アスナン
ソヘナン
ヤメナン
トメナン
ミエナン
キエナン
シレナン
カレナン
スエナン
ウエナン

古

不南ノ格

五十連ノ段ヨリウツノ故ニサルノ心ヨナし

日

右同

不南ニ也言結名格

日

伝ナル名ヲ云ルニアラントし　ヤノ結古ノ故し

日

右ニ同

畢南ノ格

後

ソコヒトモナノロツクリスルトナル格し

古

右ニ同

畢南ニ也言ヲ結名格

古法

心ツヨクモトハデヤムニヤアラントナル格し

古

兩南ノ格

イトヽ草深キ丸モ野トナルニヤアラントナル格し

日

伝シヨリ吾モタベキノ松山ノ波ハコユルト自ニ讀タレバヌルノ心ヨナスノ格し

日

人ヒトヽ見ルニ殿ガ立ハタテ君ノ目ニハト他ニヨミタレバ見エザルノ心ニナル格し

後

私カ思ニ殿ガ立ハタテ君ノ目ニハト他ニヨミタレバ見エザルノ心ニナル格し

古

思フ心ノ宣荷ニハイトヽ心ヲ流スルト自ニヨミタレバヌルノ心ニナル格し

君ガ心ハ春ノ氷ノ如ク我ナリトクルヤウニ吾ニハト他ニヨミタレバザルノ心ニナル格し

兩南ニ也言ヲ結名格

日

氷ニ袖ノヌレルニヤアラントナル格し

新古

夜ヨトヽ月ニ寒ヌズハ言カハセタル中モタエルニアラントナル格し

下知ノ南ノ格

古

今年ヨリ咲初タルハ散トヲコトハ習フナト下知ノ格し

古 小くらゐ山くもふかくしてくらぐ今てくらせ山あまり多ナン。下知ノ

日 くくくく

古　ちくさのもみちふきまくセバ（スレバシ）　現在

同　ちやくさせしくるめ四セバふかみとりまくるマシ（現在）

上ニ現在ノセバ在下ニ現在ノマシアリスレバシ

右ニ同

未来格

同　かくらんいやしくセバあやまつ他のくちやくちナン（ミタレバシ）（ニアラン）

上ニ未来ノセバ在下ニ未来ノナン在　未来

ダニ

此ダニトハ手ニアタル心ニテ右ノ手ヲ以テ九ノ手ヲ知ルトイフ事也故ニ此方ヲ見テ彼方ヲ

臆度ノ語ナリ

古　海ふくるかたをダニ

松ノ雪ダニ消ヌヲ見テ甚外ホミヲオレハカル意シ

同　又せくるやなくやみ夢ダニ

海郎ノ神ヲ以テ吾神ノ淚ニヌルヲオレハカリヲ知リ玉ヘトシ

サヘ

サヘハ副ナリ右ヲ九ニ添ル九ヲ右ニ副コトニテ彼方ヲ此方ニ副ヘ故ニ手ニハ重

サヘハ輕キ語也

同　くらくもくるしくにくやくふサヘ（副シ）

見ハ吾モ散花ニ副テこゾ心ガナキト

ナメ子

此三言相通ナリ。ナトハ可言ヲナトイフ云メトモ言コトアリ

ナハ無ヲトシ下知シ詞　強押テ數也　是ハ辞ハ言　詞ト云

古　えみ川あくせくつ添て子ぞ（無ナシ）ゆくてにくう

同　くるくるものやくくあやくくわかくるくえ子（無ナシ）まやくかくるく

同　くるくるぞ行くくくけやくくく

後

ミ キ ク

三言相通ノ訣

古

拾

後拾

マシ

可也
現在

古

旧

シ ミ ツ

補言 前ニアルヲ再云

古

旧

万

後拾

万

ツツ

此言ハ約筒ト唱ルト乍筒トノ両ノ扱アリ約筒トハ二言ヲ約テツト一言ヲ云ヒ現在也。乍筒トハ与掬トヲコトニテ詞ノ掬合スルヲ乍筒ト云也乍筒ハ下ノ句ノ曲ニアル時ハ上ノ詞ニ反也

國ツ美神。上ツ下ツ。浮ツ沈ツ。見ツ聞ツ。行ツ戻ツ。金ヲ押ヲ知ル

約同格（ツヅノツノ）

古　ツヅヨ約テ香ニ白ワトナル格し

ツヅヨ約テ香ニ白ワトナル格し　現在

ツヅヨ約テタチカクニワトナル格し　上ニ同

ツヅヨ約テ目ヲサマシワトナル格し上ニ同

作筒格

後　音ニキヽチカラヲヨフルトナル格し。

伊ニ色ヲ見セナカラチルトナル格し　下ヨリ上ニ反し

涙ニ袖ハヌレナカラ忍ヒキトナル格し　下ヨリ上ニ反し

カリケリ

カリノ反キキヽケリノ反キヽ共カリケリノ反キヽキハ限ノコトニテ詞ノ終ヲキノ一言ニテ留コトセ

古　秋ハヒヒキトナル格し

伝ナルモノト云可トナル格し

ラシ

ラハ閇氷見シハ補言也クスツヌフムユル。些言下ニ續トキハ他ニシテ疑ナリ。照ヤウナ。降ヤウナ。聞ヤウナノ心也

吉野ノ山ニ水ニ雪カフルヤウナトナル格し

川雲立ヤウナトナル格し

ケラシ

此ケニ續ラシハ疑ニハ非ラレノ反リニシテケハトヽ云コトナルヨリ延テケラレトヽ云ナリ現在ニシテ自也　後世ノ俗是ヲ誤テ他ト心得ル僻ゴトセ

時雨ニ色ノウツロヒ行草ヨリモ君カ心ハ拙ニケリトヽ云コトニテ絶タル意ノ心ナリ拙ヤウナトヽ云コトニハ非ス意ノ心ヲ考テ可知

既ニ古今ノ序ニ云神代ニハ哥ノ文字モサタマラス現在コトノ心モワキカタカリケラシ中畧

三十文字ハ余ヒト文字ハヨミケル賀是前後ニ現在ノ留アリテ中ニ疑ノ留アルヘキノ所謂ナレ猶由カリケラレ反キニシテ。コトノ心ワキカタキトヽ云コトナリ万葉春過テ四夏来ニケシ良之。是ラモケラシ反キニシテ百夏来ニケリトヽ云コトナルヨリ後世人是ヲ類ナリト心得タル故ニ此哥ヲ解得ルコト難シ委萬葉言衣里ニ云皆詞ノ本ニ暗故ナリ

ニキ

古

本語ハニケリナヲケリヲ反テニキトス是ハニキトス辞ニハアラズ二ハ辞ニテ上ノ詞ノ受テ下ニケリト留ル也

テキ

日

本語ハテケリノケリヲ反テテキトステハ辞ニテ上ノ詞ノ受テ下ニケリト留タル也

キヤ

日

本語ハケリヤノケリヲ反テキヤトスヤハ反辞ニテ疑ノ反辞ナリ

雪ノミツケテ君ヲ見レトハ思ヒケリ思ハセヌト云格

カシ

カハ願コトヲ示ス補言ナリ願ノ心也讀方ニ従ノ

新古

カハ願コトヲ示ス補言ナリ願ノ心ヲ示ハ補言ノ扱アリ

尋来ヨカシト願コトヲ其例限リナキ人ノ心ヘカシ

君ハ忘レ敬受ノ鳴時分ニ思出スヲ可ト其外ハ忘レカシ。表ノ多ヲカシ

敬ノ心ヲ残ルカシ皆敬ノ心シハ補言カシトスル辞ニハアラズ

ハモ

方

是ハハモトスル語ニハ非ハ上ノ詞ノ受タル辞ニテモハ本トスコトニテ少残格ノ扱ナリ

古

草ハツカニ見エシヤウニ鳥渡見エシ君ハ本ト少残テ如何ナリシトスル心

チフ

本語ハトイフナルヲトイノ反チニシテチフトス本ヲテ通シテテフトモスル也

訛トスコトシ

テヘ

本語ハイフトスコトナリ者ナトスハ言ハトスコトシ

ケク

助語也ケクノ約クシテ則寒ケクトスハ寒クトスコト也。悪ケクトスハ悪クトスコト二延テケクハスナリ

歟ノ扱ノ格

敬補言

日

君ハ忘レ敬受ノ鳴時分ニ思出スヲ可ト其外ハ忘レカシ。表ノ多ヲカシ

敬ノ心ヲ残ルカシ皆敬ノ心シハ補言カシトスル辞ニハアラズ

ハモ

是ハハモトスル語ニハ非ハ上ノ詞ノ受タル辞ニテモハ本トスコトニテ少残格ノ扱ナリ

方

古

草ハツカニ見エシヤウニ鳥渡見エシ君ハ本ト少残テ如何ナリシトスル心

チフ

本語ハトイフナルヲトイノ反チニシテチフトス本ヲテ通シテテフトモスル也

訛トスコトシ

テヘ

本語ハイフトスコトナリ者ナトスハ言ハトスコトシ

ケク

助語也ケクノ約クシテ則寒ケクトスハ寒クトスコト也。悪ケクトスハ悪クトスコト二延テケクハスナリ

ラク 助語也。ラクノ反ルニシテ則老ラクトスバ。老ルトスコトヽ見ラクトスバ。見ルトスコトヽ也ルヲニ言ニ延テラクトス

カツ 古 早トスコトヽ也。カヽ搦コトツヽ續コトヽ三テ甚上トスヽヨナスヽ也

ハタ 古 ハトハ兩ノコトヽ。タハ手ノ左右ノ手ヲ合タル如ニ歩モ違ハヌトスコトヽ也

ムヘ 古 ムトスコトヽ也。通テウトモスヽ

エ ヨシ。反イナヲ通テエトスヽ

アヘヌ アヘ反エニテ得ヌコトヽ

古 得ヌ

其外ヽヽアヘヌ。ヽヽヽ

雅言俗言之差別

俗言	雅言
エルトゝヱズ	ウルトゝヱベシ
トケルハ	トクルハ
ミセルハ	ミスルハ
タテルハ	タツルハ
イヲルハ	イヌルハ
ヘルハ	フルハ
ナガメルハ	ナガムルハ
ミエルハ	ミユルハ
ナガレルハ	ナガルルハ
ウヱルハ	ウウルハ

如是エケセテヲヘメエレヱの下に段々ルゝゝゝ詞ゝ俗言ゝゝ雅言ゝゝ異ゝ濁ゝ此ゝゝゝむゝルゝ言ゝゝゝ

[illegible]

月やあらぬ　文治　反辞

此哥の詞たゝ人の知る所なれども行平の中納言の在原業平の哥を引て其詞を取て面白やとは[illegible]年此所に住る人と共に月を[illegible]人を行平の[illegible]

いせのあまもあさすゆふすにかつぎてふあふぐを見ゾかなしへにけり　義孝

言伝ふる伊勢の海士の朝なゆふなに海すかつぎて鮑を取るとは其鮑の如く片思して居る間の手ぶり思の深を含綿なり

ふるみをしつゝ　歎息

言伝ふる世の中を詠せしてふるものゝ[illegible]

上の句の留て二の詞あり上の句の留て二の詞あり下の句の留て二の詞あり故なり

ちゝのみのちゝはゝそかりしかとへ　押　結

言伝ふる[illegible]歳の[illegible]

留て二の詞あり[illegible]

てる月をやとしたんとてたゝく[illegible]

言伝ふる照月を[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言ひとりなさしめたまひしかの神の辭にて上の秋の稻に友くるまの

あいめとみふるまとりもちて

言ひとりなさしめたまひしかの夜の雪のつもりたる田を引きたる切りたる合くるまの

[illegible]

言ひとりなさしめたまひしかの人をうたてふるまの

言ひとりなさしめたまひしかの名の如くしるしの眼をうたてやうたてかやうに宮とと

[illegible]

言ひとりなさしめたまひしかの秋の稻に友くるまの

言ひとりなさしめたまひしかの花をもらまれたる中の秋をもれにもみてうれふるる

[illegible]

言ひとりなさしめたまひしかの秋がのがの辭一首の肝要なり

[illegible]

[illegible]

言ひとりなさしめたまひしかの人のたまはくるまの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

言ひもて昨日まで早苗[illegible]
[illegible]稲葉[illegible]秋風[illegible]
[illegible]コレ[illegible]結ぶ[illegible]辞[illegible]

[illegible]コフ[illegible]苗[illegible]シガ[illegible]結ぶ[illegible]

言ひもて昨日まで早苗[illegible]
[illegible]稲葉[illegible]秋風[illegible]
[illegible]コレ[illegible]結ぶ[illegible]辞[illegible]

[illegible]コフ[illegible]シガ稲にいでぬ人にちぎりおきけり

言ひもて我コフ[illegible]心のうちに思ふ人[illegible]
題在[illegible]
コフ[illegible]思ひ結ぶ[illegible]
[illegible]辞[illegible]

[illegible]ふ[illegible]

言ひもて[illegible]
[illegible]チリカヒクモレ[illegible]下句の言ひ[illegible]故に[illegible]下句の心[illegible]

[illegible]

渡河[illegible]途の河の[illegible]言ひ[illegible]我法[illegible]雨の[illegible]降る途の河[illegible]

[illegible]途を行く途[illegible]浮ひ[illegible]加ラコ[illegible]下句[illegible]

人[illegible]又[illegible]

言ひもて五月雨に人[illegible]故に人目の[illegible]
[illegible]五月雨[illegible]人目の[illegible]

[illegible]

言ひもて五月[illegible]沖の石の如[illegible]コフ[illegible]
[illegible]コフ[illegible]子と結[illegible]

[illegible]人のこ[illegible]ノ[illegible]

言ひもて海士人の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ぬ[illegible]

言ひもて登り浮ぬ一夜[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

言葉を見てのゝヤ人[illegible]

[illegible]

言葉を出すと傳へる滝[illegible]

喩をれ[illegible]

○此次ゝ奇ゝ辞の目印のゝ記ゝ[illegible]

解ゝ奇のゝゝゝ解別ゝ見ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

辭終

書假字扱

初學の人〻假字をあゝ輙書もを思を常なり然るを假字を
皇國の大道をあゝ輙書を難し弘言の假字を知らも欲せば先
五十連の法則を知て詞の本を知て然て此音を〻ア行のイを或ヤ行の
イを或ワ行の井を知てイイ井エエヱの差別を正す
然を言ふの假字を知を尤も大古の人を然を學ぶ用を
後に故假字を文字を借後世の人を文字を假字を借て本
末乱〻相〻假字を五十連の法則を書を見を悪知て
あらざるを於て後世の學者多の書を見を古言の假字を
足跡を千言萬語足跡を難己心のを書を覚
を然を能五十連の法則を知て書人を聞て故を呂通俗の

覚易〳〵ふ爲〳〵其書方を口ちの寄〳〵綴〳〵古〳〵導の枝折とす

○いひはの假字ヲ知寄

語ノ下ニいニ鄕音モノハひヲ書テマニ鄕音モノハはヲ書ト知レ

ひ書例 見峽甲斐思慕憲乞 賀是詞下ニハ皆ひヲ可書音便ニいヲ書コトハ次ニ云

は書例 淡川栗岩皮除鍬沢兵 賀是語ノ下ニハはヲ可書

○語ノ下ニいヲ書假字 音便ノ假字より大え巻三委

鵠鶴 老悔 双 愛 鞍 啄 次 於 朔日

題 染地 松明 就 蔑 幸 往 秀 粥 鮎

語ノ下ニいヲ書詞大槩是萩より余ハひヲ書ト可知

○語ノ下ニうヲ書假字

下ノうハ乾 騒 ニ 洙 橈 弱 理 皺 雹 御酒

下ニ書うハ大槩是萩より余 憐 所謂 美替 賀是はヲ可書

へ書例 假令 懐 傳 數 仕 相語 賀是ふニ通フモノハへヲ可書

え ノ例 所聞 絶 越 肥 煮 萌 賀是ゆニ通フモノハえヲ可書

語ノ下ニへえニ聞エテふトゆトモ通ハヌモノハへヲ書ト知レ

へ例 行方 前 後 上 蠅 偏 鼻 余從之

語ノ下ニうニ鄕音モノハふヲ書テをニ鄕音モノハほヲ書ト知レ

ふ例 曰 嫌 齋 潤 疑 向 赦 習 賀是ふヲ可書尤辭ノてノウ時ハうトひニ替テ可書 其例

ノタマひテ キラハテ ムカひテ ムカひテ 賀是可書ふヲ書例ハナシ

ノタマうテ キラうテ イハうテ ムカうテ

ほ例 狼 公 正親町 大臣殿 朝貞 賀是語ノ下ニハほヲ可書

○語ノ下ニほト聞エテをニ書假字

操 水脉 鰻夫 臭十 掉 鰹 萎 薑 二申 婦人

をヲ書語ハ大槩是等すり余ハ皆ほ二可書

○語ノ頭三書をノ假字

伯父 伯母 夫男 男女 妻 惜 老翁 長 桶

女郎花 尾花 荻 岡 折 木 踊 教 治 食 居

遠 稚 現 兎 二 斧 拜 鴛鴦 前日 犯 前年

語ノ頭三書をハ大槩是等すり此余ハ皆れ九上可知 其例 蹠 覆

老 奥 生 乙女 翁 織 重 凡 逞 恐 覺 命 行 驚

晩 稲 押 置 大 音 綾 帶 追 贈 奢 穏 翼 ハ可書

○語下三書えノ假字

疾 貫 生 得 甲 丙 崩 長 柄 笛 寒 栄 鰹 夕 榮

○語頭三書ゑノ假字

襟 烏帽子 狗子 鬻 二 笑 醉 飼 衛士 画 恵 昊 若菜ゾ

語ノ頭ノゑハ大槩是等すり此余皆えヲ可書 其例 蝦夷 疫

疱 鰕 枝 撰 縁 榎 荏 兄國 蒲萄 敢不知 余従之

○語ノ下三書ゑノ假字

礎 二 聲 末 楫 居 巴 植 杖 故 二 机 陶器

下三書ゑハ大槩是等すり余ハヘトえヲ可書

○語ノ頭三書ゐノ假字

臀 二 猪子 瑞籬 二 居 田舎 堰 壊 膝行 二 禮 鯖ゾ

頭三書ゐハ大槩是等すり此余ハ皆いヲ可書 其例 岩 庵 息

泉 雷 古 灼然 余従之

○語ノ下ニ書ヌノ假字

藍 神門 髪 髪 圓居ニ地震 鴨居 位 烏芋ニ參 紅

下ニ書ヌハ大槩是等ナリ余ハヒヲ可書 其例云祝 飯 爭

初 間 卯 水雞 境 纒 拂 余従之

○ちノ濁ノ假字

味 鯨 氏 鍛人 紅葉 撮 鞠 筋 閉 恥ニ 臂 藤ニ 攀

ちノ濁ハ大槩是等ナリ此余皆ヂノ濁ヲ可書 其例冨士 同 毛

頂 闔 戸 毋 雉子 躑躅 虹 鮎 網代 短 聖 文 裕

陶師 人名従之

○すノ濁ノ假字

鵙 雀 鼠 數 疵 筈 蚯蚓 梢 葛 髻 華 奇 准

すノ濁ノ假字大槩是等ナリ此余皆ヅヲ可書 其例 渦 沉 梓

玉章 何處 賤 崩 盃 鶉 囀 屑 梳 東 四阿

感 珍 讓 授 徒 滴 雷 電 水豆 預 出 静

携 貪 煩 下技 必 上總 削 尋 余ハ従之

○語ノ下ニうヲ書假字哥

此うハ言便ト音便ノ間也 印ノ○ハ言便ノ目印也△ハ音便自印也音便ハ

ひノうニてキタリ故ニうヲひニ替テ可見布言便ハうヲ省テ可見

弟ニ 妹 八日 客人ニ 漸 詣 設 給

孝ニ 首 冠 藏人ニ 兄 兄公 舅 姑

○五十連一段ノ横音ト五段ノ横音ノ下ニ續テふト所聞トキハ一五同

音ヨナレテ假字紛易シ則逢負買乞是等ナリ其扱ノ哥

吾耳ニ一五ノ下ニふト聞バひトぱトをトニ移シテ知ル

其訣

ア　逢（アフ）　相（アフ）　仰（アフキ）　扇（アフギ）　逢（アフミ）　江（アハウミノ約）
賀是ヒホヨリミ通ハシテアノ仮名ナルコトヲ知也

カ　買（カフ）　向（ムカフ）　戦（タタカフ）　扱（アツカフ）

サ　携（タヅサフ）　神（カムサフ）　佐扶（サフ）　隠（カクサフ）
サフノ反スウ

タ　謡（ウタフ）　荅（コタフ）　墓（ツタフ）　傳（ツタフ）

ナ　叶（カナフ）　縄（ナハフ）　綯（ナフ）　結（ユヒナフ）　納（イサナフ）　誘（イサナフ）　引（ヒ）

ハ　這（ハフ）　祝（イハフ）　幸（サイハフ）　貯（タクハフ）

オ　生（オフ）　負（オフ）
賀是ヒニ通ヨクテオノ仮名ナルコトヲ知也

コ　乞（コフ）　懲（コフ）　圍（カコフ）　懇（イコフ）

ソ　添（ソフ）　争（アラソフ）　筆（カソフ）

ト　問（トフ）　厭（イトフ）　纏（マトフ）

ノ　昨（キノフ）　日（トノフ）　調（ソノフ）　園（ソノフ）

ホ　匂（ニホフ）　艷（ホフヅキ）　酸（ホフ）　漿（ホ）

マ　舞（マフ）　構（カマフ）　角（スマフ）　力（ウヤマフ）　敬（ウヤマフ）

ヤ　ヤフト續コトナレ皆ヨフ也
言便ニヤウトヱ詞アルヽ也

ラ　習（ナラフ）　体（ヤスラフ）　笑（ワラフ）　嫌（キラフ）

ワ　ワフト續コトナレ　詞ノ下ニワフト聞ユルモハハヲ書　井ト聞ハヒミウト聞ハプヽエト聞ハペヽヨリト聞ハポヲ書ワ行ハ皆ハ行ニ移テ書

モ　思（オモフ）　病（ヤモフ）
詞ノ上ニモフトヱコトナレ皆マフ也

ヨ　漂（タタヨフ）　通（カヨフ）　迷（マヨフ）　猶（イサヨフ）　預（ヨフ）

ロ　鎧（ヨロフ）　取（トリヨロフ）　宇（ヒロフ）　拾（ソロフ）　揃（ソロフ）

ヲ　ヲフト續コトナレ
ワ井ウエヲノ五言ハ一言一語ニシテ語ノ上ニアラサレハ不書

○ひふへほニ通ハザルふノ假字

貴（タフトキ）ニ　葵（アフヒ）　撲（アフチ）ニ　障泥（アフリ）　倒（タフレ）　峠（タフケ）　河内（カフチ）ニ　夫（ヨフイ）　危（アヤフシ）

右ニ十二首の哥ヽ呂通俗の爲ます初學の人常ヨ口ヽ吟賞ヲ書ヽ放ヽ假ウめヽ書ヽ巳ヽ自在をもヽ古言を集ヽる書ヽめヽ便ヽヽヽ生涯五腸ヽ書ヽヽを得ヽヽ知ふふし

[illegible]

天地の初めの一つ柄なれば
仕へ奴高くも美しく
[illegible]
[illegible]
[illegible]

集(アツメ)て言(コト)葉(タマ)の花(トキニゾ)咲(アヘ)まさる四(テル)方(ヒカル)
月(ツキノ)桂(カツラ)の折(アカ)ぬ千(チ)年(レ)の春(ハル)
衣(コロフ)代(ヨニ)を無(モガ)系(ナキ)
反歌
千(チ)早(ハヤ)振(ブル)神(カミ)の言(コト)葉(ヲ)人(ヒト)の世(ヨニ)
ふるの下(カケ)露(テ)袖(サキク)に絡(アレコソ)

南北の分れ義みやひ色森部俗て云雲雖章一古年
連ての者の業利の理俗新年云月幅義一は和名を
乃姉聚るや五條三品を加なりしあるを
家を一北家を出家を出て京極黄門を
是始乃一を年新京新黄門を
許を者一は乃法俗不を不の義家
無設国不を法新を有新少や抑し
世新家是此京法乃聚一の者乃書も新年
妙形る人を何新を云雲法を不業新を

す新年一形も廣新業の利俗面を者法を新
俗乃代乃家而を古を潤を乃家法利家の俗勢新
俗を古家業毋形の新て新年俗の古宇志妙俗新
家を年業乃黄利後八何利度の一の則乃時け
庶業古を新不原を妙を義新乃の情を乃新を乃
新を者を業を新辞人乃業新年を俗を業の
新乃を年を者を法業乃を長を者を廣を玉義新
杉菴黄少黄乃黄を是を義の人情を者の聚深
久何新を業を年一五中を乃を五を業を云語

詞辭ハ其ものゝ見たるまゝ知能ものゝ
手業はゝ水稲作ハ古きあるを人等
伝授手業に實ものゝひて業刀つ稱雲法者又直
ゆゝ雜如し杏志解ハ異八百ゝ取至あるものゝれ
ふゝゝ國美地の米ぬゝ有那八伝ゝ
此書部類の礼ものゝ利 蔵麦ゆも箱祢夜和ゝ
風ゝ乃学年 豊ゝ年 ゝ杏し杏ゝ 因
有理学年 年川 蔵も杏ゝ 陸ゝ 雲法者
部解年 一云 杏業法 ものゝ雲法 風美

ゝ年 ゝ乃 雲業ゝ年 杏ゝ
了 杏深 ものゝ利

天保五年甲午十一月 正四位下秦親典

浴東稲荷社司

崇山堂蔵

天保三年五月浪華ノ崇山先生の許ニ筆を執テ同五年
正月京都ニ神元敬主の彩僑春樓書畢

杉菴老人書目録

火水與傳　此書ハ古事記神代巻ノ天地ノ氣ノ發及神祇名ヨリ其神形ノ形假名自然トアラハルヽコトヲ今傳ノ口決ノ書也　寫本　一巻

水穂傳　火之巻　三巻　水之巻　三巻　附録　一巻　七巻

萬葉集言撰　此書ハ畧解ニ猶未可ヲ在ニヨリテ五十連ノ抜ヲ以テ一訓ヲ詳ニ解分古人ノ言ヲ今ノ現ニ聞カ如ニ著ス　未刻　十巻

大秡　祝詞正解　此書ハ神明ノ御心ニ合テ人心ノ穢ヲ洗フコトヲ五十連ノ抜ヲ以テ解分罪ヲ洗トヱコトワリヲ詳ニス　未刻　一巻

小倉　百首言撰　此書ハ先達ノ解選タル コトヲ五十連ノ抜ヲ以テ詳ニ解人カ哥ヨム人ノ便トナス書ナリ　同　二巻

安房國勝景圖繪　此書ハ名所古跡及山水ノ勝景等ヲ畫ニ自圖ヲ以テ著シ古人ノ詩哥及當時人ノ詩哥ヲモノスル　同　四巻

夢乃浮橋　此書ハ在京六年ノ遊歴ノ中朋友ノ哥等ニ自ノモ加テ旅寐ノ夢ノ物語ヲ著ス　同　一巻

古今集言撰

六巻

志刻

此書ハ後世ニ及テ本文混雜シテ
焉誤アルヨヽヲ論ト吾モ二首亦
撰タルニ非ク　吾ヨリ吾ヲ二首三
首惑ヒ十首ト文合フ吾物語ヲ
文神代ノ水火ノ御傳此集中ニ
在フ尋常ノ撰集トハ別リ亦リ
文面ニ現レズシテ其中ニ悉ク
アルコトヲ涼サズ解テ著　抉

賣弘所　江戸日本橋二丁目　小林新兵衛

同　　栖原屋茂兵衛